

2 学年だより

夢の宅配便

2 年学年主任

水野 嘉代治

新型コロナの影響

今日から、服装強化週間がはじまりました。正門、東階段、昇降口に先生方が立って登校する生徒に服装のアドバイスをしました。紺色以外のベストで登校してきた生徒に、「登校は紺色のベストですよ。」と注意したり、校章がついていない生徒に「校章をつけるのを忘れているよ。」と呼びかけたりしました。私は、正門に立っていたので、城山中学校の生徒と同時に小田原高校の生徒とも顔を合わせました。

正門に立っていて、感じたことがありました。それは、生徒から「おはようございます。」と挨拶をされることがほとんどなかったということです。多くの生徒が、軽く頭を下げて目の前を通り過ぎていこうとしたので、私から「おはよう！」と挨拶を投げかけました。城山中学校は、生徒とすれ違うと「おはようございます」と生徒が挨拶をしてくれていました。教師だけでなく、来校者にも「こんにちは」と挨拶をするので、必ずと言うほど「城山中学校の生徒は挨拶がしっかりしていて気持ちが良いです。」とお褒めの言葉をもらっていました。私は、城山中学校の勤務年数が今年で18年となります。今から、約30年前に、城山中学校に逗子市の学校から赴任してきたときに、校庭にいた生徒に次々に「こんにちは」と挨拶されてびっくりしました。それ以後も城山中は挨拶が気持ちよく交わされる学校として高い評価を受けていました。今の1年生から3年生はすべて、新型コロナによる感染拡大防止の政策の中で学校生活を送っている生徒となります。部活動の制限や黙食や集会での校歌斉唱のカットなど、至る所で表現活動が縮小されてきました。昨年卒業した3年生は1年生の2月まではは、コロナの影響を受けずに普通の生活をしていた学年でした。彼らは、城山中学校の伝統でもある挨拶を交わす文化を知っていました。ですから、緊急事態宣言が出されても、マスク越しに「こんにちは」と挨拶を絶やすことがありませんでした。この3月の卒業式で、3年生の代表の生徒が、「城山中学校は挨拶が気持ちよく交わされる学校です。是非、城山中学校の文化を受け継いでいってください。」と後輩に向けて、メッセージを残しました。

今日の正門で、1年生から3年生の多くの生徒がこちらから挨拶をしなければ無言で通過する状況を見て、是非、城山中の文化を守り続けてほしいと思いました。